

ゲンゴロウ



かんきょうしょう ぜつめつ きく
環境省指定準絶滅危惧、鳥取県指定絶滅危惧Ⅱ類

西伯地区にて

(撮影：桐原佳介)

鳥取に住み始めてから5年目の平成16年6月のことでした。私たち夫婦は、人生初対面の生き物と出会いました。それは日野町産のゲンゴロウでした。名前は有名でも、近年なかなか姿を見ることができなくなった水辺の生き物です。

先日、東京都でゲンゴロウが絶滅したという衝撃的な記事を見つけました。体長38ミリほど、国内最大の水生甲虫であるゲンゴロウは、秋田と沖繩をのぞく全ての都道府県で絶滅のおそれのある野生生物としてレッドデータブックに掲載されています。かつては、普通種であった彼らは、いまや超がつく程珍しい虫となり、今後は危ぶまれています。

日野町で確認できたのなら南部町にいるかもしれないと、私たちは町内のため池の調査を始めました。今までに60カ所ほど見てきました。が、ゲンゴロウが見つかったため池はたった1つだけです。

ゲンゴロウが泳いでいたため池は、ザリガニやウシガエルなどの外来種がほとんど入っておらず、タガ

メやカスミサンショウウオ、オシドリなどの水辺を好む希少な生き物が見られ、町内でも三ツ星レストラ並みの素晴らしい環境です。かつては、町内にも多く点在していたと思われる豊かな止水環境が、様々な理由で不健康な状態にあります。「在来の生き物たちの賑わいがあるため池」そのものが絶滅寸前なのです。ゲンゴロウは、総称と区別するために、「ナミゲンゴロウ」とか「タダゲンゴロウ」と呼ばれることがあります。生き物仲間の会話では「最近ナミゲンやシマゲンを見ないよね。マメゲンはよく見かけるけど、クロゲンはどう？」という使い方をします。端から聞いたら何の会話かさっぱりかもしれませんね。

南部町でさえも、ゲンゴロウの仲間の多くが出会いにくい生き物となっています。タガメと並ぶ水辺の豊かさの象徴、ゲンゴロウ。子供たちに見て触って力強さを感じてもらいたい虫の一つとして、この町のどこかで命をつないでいてくれればと思います。

自然観察指導員 桐原真希